

放射能汚染時代を生きる

— 福島の「いま」と私たちの選択

3.11東日本大震災から2年が経過しましたが、放射能汚染は、福島で暮らす人たちにとっても、また東京近郊で暮らす私たちにとっても、深刻で、長期的な問題です。国の対策が十分でない中、子どもの健康被害、除染、食べ物の汚染、避難、農業と、問題は山積なのに、その解決は「個人の選択」「自治体の判断」に丸投げされている面も多くあります。また「生産者」と「消費者」、「避難した人」「しなかった人」などが分断されるなかで、多くの人が不安を抱き、生きることが困難な状況も生まれました。このクラスでは、起こってしまった原発事故と放射能汚染という事実を冷静に受け止め、課題をひとつひとつ解きほぐしながら、個人の生活レベルでできること、地域や自治体レベルの取り組み、そして国の責任を考えます。また、放射能汚染とその危険性をめぐる認識の相違や誤解なども議論しながら、共通の認識をつくっていくことをめざします。

- 2013年6月～12月
- 基本的に月曜日 19:00～21:00
- 全8回/定員30名
- 受講料：28,000円

6/17

放射能汚染とわたしたち

— まず“ベクレル”と“シーベルト”を理解する

今中哲二 (京都大学原子炉実験所 助教)

放射能汚染への向き合い方を自分で判断するのに必要な基本知識を解説します。

●主著：『低線量放射線被曝—チェルノブイリから福島へ(叢書 震災と社会)』岩波書店 2012/『Silent War 見えない放射能とたたかう』講談社 2012



7/1

放射能汚染問題から食と暮らしの再生を

小山良太 (福島大学経済経営学類 准教授/うつくしまふくしま未来支援センター 産業復興部門長)

風評被害という用語は誤りである。原発事故の影響で放射性物質が拡散した地域は福島県に限らない。政府による詳細な放射能汚染マップの作成と検査態勢の体系化が必要だ。

●主著：『東日本大震災復興に果たすJAの役割』社団法人家の光協会 2012/『復興の息吹 人間の復興・農林漁業の再生』農山漁村文化協会 2012 ●参考文献：『放射能汚染から食と農の再生を』家の光協会 2012/『放射能に克つ農の営み 福島から希望の復興へ』コモンズ 2012



7/29

「避難する／しない」は誰がどう決める？

— 自主避難した母親たちの苦悩と希望

中村美紀 (山形避難者母の会 代表)

避難区域以外から子どもを連れ、夫を福島に残し母子のみで避難を選択した母親たち。故郷に残る大切な人を想うが故の苦悩と、福島の今を知ってほしい。



8/29 (木)

日々の暮らしの中で放射能汚染にどう向き合うのか

山田 真 (小児科医)

福島原発事故はとり返しのつかない惨事である。しかし、放射能による健康障害が因果関係を説明しにくいのをいいことに、放射能安全神話が作られ、急速に風化されようとしている。このことにどう接していくのか、考えたい。



9/20 (金)

食べる・食べないの分断を超えて

— 福島の農作物と農民たちの現状

大江正章 (PARC 代表理事/コモンズ 代表)

「福島の奇跡」ともいわれる米や野菜の現状と、危険かもしれないが故郷にとどまって耕し続ける農民の気持ちを理解しよう。本当に危なくて未来がないのは都市の生活なのでは。

●主著：『地域の力 食・農・まちづくり』岩波新書 2008/『放射能に克つ農の営み 福島から希望の復興へ』(共著) コモンズ 2012 ●参考文献：小出裕章・明峯哲夫ほか『原発事故と農の復興』コモンズ 2013



反原発デモに参加する人びと



除染した土の仮置き場

10/21

福島県の漁業・漁業者の「いま」

乾 政秀 (樹水士舎・最高顧問)

原発事故以来、福島県の沿岸・沖合漁業はほぼ全面的に停止した。放射能が不検出の魚類を対象に一部漁業で試験操業が始まっているが震災前とは程遠い。福島県の漁業の現状を報告する。



●主著：『漁業・漁村の多面的機能』東京水産振興会 2002/『福島原発事故による海洋汚染と漁業被害』漁業経済学会 2013

11/15 (金)

生産者と消費者の顔の見える関係をどう続けていけるか

戎谷 也 (大地を守る会 事業戦略部 放射能対策特命担当)

あれから2年。私たちはつながりを取り戻せたのか…答えはまだです。それでも「食」はつながりを求め、問いかけてきます。いま一度、“原点からの再出発”を始めよ、と。



●共著：『放射能に克つ農の営み 福島から希望の復興へ』コモンズ 2012/『脱原発の大義—地域破壊の歴史に終止符を』農文協 2012

12/16

家庭でできること

— 放射能排出の食事法

境野 米子 (生活評論家/薬剤師/福島県教育委員会 委員長)

昨年の11月、ベラルーシ共和国へ行ってきました。汚染地にある中等学校、森などの線量が低いのに驚きました。まだ高い線量の福島、子どもたちの学習環境、健康、農業など、課題は山積みです。



●主著：『あの日からのお母さんのしごと』ワニブックス 2012/『子どもを放射能から守るレシピ 77』コモンズ 2012 ●参考文献：境野米子『病と闘うジュース』創森社 2011



協同で仕事を
おこす

協同で仕事を
おこす

協同で仕事を
おこす

協同で仕事を
おこす

社会を変える生き方・働き方

広井良典 編著 1500円

市民が仕事を創り、地域を活性化し、新しい公共を担う。一人ひとりが出資者・経営者・労働者である協同労働の全容！

原発事故と農の復興

原発事故と農の復興

原発事故と農の復興

脱成長の道

脱成長の道

脱成長の道

脱成長の道

分ち合いの社会を創る

勝俣誠、マルク・アンペール 編著 1900円

幸福は消費によってはもたらされない。簡素な生き方が拓く節度ある社会と経済のあり方を内外の11人が多様に描き出す

放射能に克つ農の営み

放射能に克つ農の営み

放射能に克つ農の営み

原発事故と農の復興

避難すれば、それですむのか？！

小出裕章・明峯哲夫ほか 1100円

食べ物の安全性を守りつつ農業・農村を復興するにはどうすればよいか。反原発の第一人者と有機農業者たちが徹底討論

放射能に克つ農の営み

福島から希望の復興へ

菅野正寿・長谷川浩 編著 1900円

報道で伝えられない現状を現場の農民や研究者が明らかにし、第一次産業の復興・農の力による脱原発社会の実現をめざす

コモンズ 東京都新宿区下落合1-5-10-1002
tel03-5386-6972 fax03-5386-6945

<http://www.commonsonline.co.jp> 【価格は税別】